

恵那市教育研究所だより

えな



「図書室を彩るPOP作り」
山岡中学校 3年 伊藤彩花

恵那市だからできること



コロナ禍において、一層子供たちに必要な力とは何か、学校の役割とは何かと日々考えています。

では、主体性・社会性・郷土愛を目指す恵那市だからできることは何か、学校の在り方を考えてみました。

1 地域とつながり、豊かな心が育つ

市内小中学校を訪問すると、地域講師から茶道、歌舞伎、太鼓など伝統文化を学ぶ児童生徒の姿が見られます。本校においても、地域の人との関わりは、多様な体験と学びがあることで、子供たちの大好きな時間となっています。自分でやってみたい内容を選び、目標を自分で決めて、自分の力でやりきっていく姿は、堂々として輝いています。

恵那市ならではの伝統を受け継ぐ地域の指導者から学ぶことは、人と人とのつなぎ、地域の人の思いを体ごと実感することにつながります。さらに、1つの技をきっちりと最後までやりきる達成感を味わうことで、そこに至る指導者の生き方を学ぶことができます。志を姿で示し熱意あふれる地域の方々に感謝したいです。

2 園小中高がつながり、確かな学力が育つ

恵那市は、平成30年よりこども園教育・保育要領が改訂されることに伴い、園から小学校、中学校までの一貫した教育体制づくりがより一層進められました。園長会や研究会では、遊びや読み聞かせなどについて、より質の高い教育・保育の在り方が追究されています。

幼児期の遊びは、まさに、小中高の学習や社会で生きる大事な学びです。目に見える学力を支える目に見

恵那市小中校長会 会長 西尾 浩余

えない学力、非認知的能力（持続力、判断力、協調性など）が園の段階から着実に育てられ、それが小中高の学びへとつながっています。

一人一人の小さな気付きや成長を見届ける手厚い教育・保育のおかげでスムーズな接続ができます。

3 縦、横のつながりで、一人一人が生きる

「みんなちがって、みんないい」と言いつつ、ともすると「言われたとおりにきちんと行う」「そろえることが大事」という感覚で、みんなと同じことができないことに問題意識を向けてしまいかがちです。一方的な見方で子供を否定することなく、ありのままの姿をとらえ、支えることを大事にしたいです。

恵那市では、3歳児健診時から、医療機関や発達の専門家によるエビデンスに基づき一人一人の特性を理解し、その子に合った支援を行う体制があります。個の特性と行動をつなぎ、一人一人が安心して集団の中で力を発揮できるための環境や指導について考え、一人の成長を縦と横のつながりでより適切に支援しようとしています。一人一人の子供の発達が、専門的な見方で支えられ、支援がつながっていることに日々感謝しています。

子供たちには、自分らしさを発揮しつつ、いろいろな考え方をもつ人と一緒になってたくましく生きてほしいと願っています。

恵那市の子供たち誰一人取り残すことなく、よりよい成長を支えていくために、地域、園、発達支援などの体制と縦や横の人のつながりを学校教育に生かしていくことが、恵那市だからできることであると思っています。



恵那西中学校

好きを仕事にする

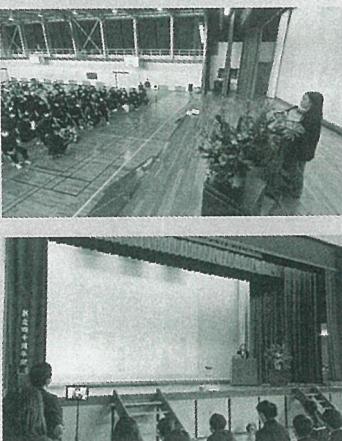
東京で音楽を中心に様々な事業を展開する「ロッキング・オン・グループ」にお勤めの本校卒業生、安田季那子さんを講師にお招きし、「好きを仕事にする」をテーマにPTA親子教育講演会を開催しました。

学生時代から好きだった「文章を書くことやバンド活動」が現在の仕事につながった経緯などの説明とともに、「好きなことからつながる職業は多くあるから、夢中になれることを見つけてほしい。」と語りかけてくださいました。

生徒にとって、自分の将来を考えるうえでたいへん良い機会となりました。

生徒の感想

「好きなことに関わる仕事はたくさんある」ということが、とても心に残りました。様々な関わり方があるということを知ることで、自分の将来の選択肢も広がると思いました。安田さんも、今のお仕事に就くまでや、就いた後も努力を続けていらっしゃるので、私もまずは高校入試に向けて頑張っていきたいです。



恵那北中学校

建設業講話・ドローン体験

10月28日、2年生は職業体験の一環として、職業講話を聞きました。前半は、地元の建設会社と県庁に勤務している方々から建設に関する話を聞き、後半は、地元の空撮業者の方の指導のもとで全員がドローン操縦体験をしました。普段知ることの少ない建設現場の現状や、ドローン利用による最新のテクノロジーなどを学ぶことができました。

生徒の感想

- 今回の話を聞いて、土木工事が僕たちの暮らしを支えてくれていると知って、建設業の方に感謝しなければいけないと思いました。
- ドローン体験で、自分がプログラミングした通りに動いたときは感動しました。
- ドローンは、写真や動画を撮るだけだと思っていたけど、測量などもできることができることが分かり、すごいなと思いました。
- ドローンは災害時などに役立ったり、声を届けることができたり、とてもすごい技術だと思いました。



恵那東中学校

東中に14企業が集結「出前職場体験」

地元の企業14社に恵那東中学校に足を運んでいただき、14種の職業を体験することができました。校外に出かけての職場体験の替わりにと、PTAの方が企業に声をかけてくださり、学校にいながら職業を体験することができました。企業の方から、仕事に対する思いを聞き、仕事を体験させてもらいました。美容師体験では、友達にヘアアレンジ。保育業では、ペーパーサーント劇の発表。医療体験では血圧測定や、縫合の模擬体験。運送業ではコンテナの積み込みなど、学校にいてプロの仕事を体験することができました。

生徒の感想

出前職場体験で、初めてコテを使って人の髪でヘアアレンジをして、すごく難しかったけど優しく教えてくれてすごくうれしかったし、楽しかったです。友達の髪をかわいくすると相手が喜んでくれてとても嬉しかったし、またやりたいと思いました。美容師の方は、「努力し続ける」ということをおっしゃっていて、私はそれを聞いて美容師という夢に向かって努力したいと思いました。



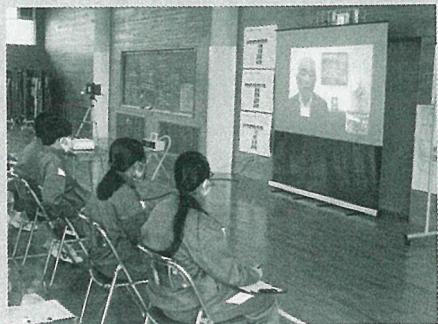
岩邑中学校

職業講話を通して

今年度は、2年生対象の職業講話をサラダコスモ社長、中田智洋様よりリモートで実施していただきました。会社の経営理念のルーツには、「世の中の役に立つ仕事を考える」という職業観があることと、そのルーツが岩村出身の儒学者、佐藤一斎先生の教えにあると知って、生徒たちはふるさと岩村を誇りに思う気持ちを高め、「人の役に立つ」ことの大切さを実感できました。

生徒の感想

- 私は中田さんの「日本中の人に安全な野菜を」という思いにとても感銘を受けました。野菜はすべて無農薬で日本中の人に、という姿勢をもっておられるのはとても素晴らしいと感じました。お話を聞き、どんな苦労があつてもあきらめずに自分の夢を追っていこうと思いました。
- 僕は「嬉しかったことより、苦労や辛かったことが多かった。」という言葉に驚きました。僕も一斎先生の言葉から感銘を受けた一人です。その言葉や考え方を大切にしていきたいです。





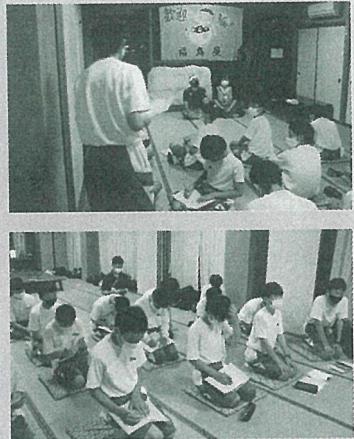
山岡中学校

篠島研修～民宿の方と語る会～

7月15日・16日の篠島研修で、民宿の方と語る会を行いました。島での暮らしについてお話をうかがうとともに、民宿の仕事や漁業について質問し、見聞を広めました。語る会を終えての生徒の感想を紹介します。

生徒の感想

- 予想はしていたけれど、コロナウイルスの影響でお客さんが全く来ないのが大変ということでした。中学生と触れ合うことが楽しいと話してくださったので、客が来ないというのはさみしいだろうなと思いました。
- 岐阜県や愛知県で豪雨があると、川に流れたごみが流れ着くということを聞いて、海にごみを捨てるだけじゃなく、遠く離れた私たちの暮らしも影響を与えていることがよく分かりました。
- 子供の頃から家の手伝いやアルバイトなどで漁師の仕事をしていたので、漁師になることは自然だったということを聞いて、早いうちから将来のことを考えていたんだなと思いました。



明智中学校

進路について考える

職業にかかる講話を聞き、進路について考えました。

①福祉の仕事 中学校訪問説明会

岐阜県福祉人材総合支援センターの職員の方と、恵那たんぽぽ作業所の職員の方より、福祉の仕事の内容、特に障がい者福祉についてお話をいただきました。

生徒の感想

- 福祉の仕事はたくさん命をあずかる大変な仕事だけど、人が生きていくうえでは、すごく重要な仕事だと分かりました。



②職業ガイダンス

ハローワーク恵那の職員の方から、進路選択に向けて、中学生の今知りたいことをテーマに、お話をいただきました。

生徒の感想

- 自分の将来の仕事の選び方が分からなかったので、今回教えてもらった情報やレディネステストの結果を参考にして、今から少しずつ考えていきたいと思いました。

串原中学校

串原の方に支えられた職場体験

コロナ禍で度重なる順延になりましたが、11月4日・5日の2日間、串原地域内3つの事業所の方に協力していただき、職場体験学習を行いました。生徒は働くことの意義を学ぶと同時に、楽しさや大変さを、体験することができました。また、どの事業所の方も職場体験の意図を十分に理解し、次世代を担う人材としてご指導いただきました。そのため「自分たちが地域のために何ができるか」を考えるきっかけにもなりました。この体験が、職業観を養い、地域を愛する心を育てる学習になりました。

生徒の感想

- 測量という仕事は、災害で崩れた道を直したり、土砂崩れに対する壁を作る時には絶対必要なことが分りました。数値を正確に測るのは難しいですが、その後の作業のために、妥協は許されない大切な仕事であることを学びました。
- 保育士として、園児たちが安心安全に過ごせるよう、先を見通して動くことの大切さ、難しさを体験することができました。園児たちと楽しく遊ぶことはもちろん、「社会で働く」立場で必要な決まったことを確実にやり切ることの重要さを学ぶことができました。



上矢作中学校

地域の人々に支えられた職場体験

コロナ禍のため、一時は中止を決定したものの、何とか町内6つの事業所の協力を得て、12月6日から8日までの3日間職場体験学習を行いました。生徒たちは働くことの意義を学ぶと同時に、働くことの苦労や工夫、喜びを実際に体験することができました。また、地域を支える人たちの思いに触れることができ、大きく成長できたと思います。

生徒の感想

- 様々な体験をしていく中で、ずっと立っているだけでも大変で、仕事の大変さがよくわかりました。でも、お客様に「ありがとうございます」と言ってもらえた時は、とてもうれしくなりやりがいを感じました。
- 働いている人たちが明るく優しくて、職場の雰囲気が暖かく感じました。「いらっしゃいませ」を全員でいう姿から、お客様を大事にしていることが伝わってきました。はがきを袋に入れる作業では、とても細かいところまでキッチリやることが大事だと学びました。集中して地道にやれば、作業を終わらせることができたように、これから勉強も頑張りたいと思いました。



8月 ニュニティ・スクール活動

飯地を知り、感じ、魅力を発信する

飯地小学校

本校では、飯地特有の文化に触れる学習や活動を位置付け、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ児童の育成を目指しています。この児童の姿は、地域ぐるみで育てたい姿として、学校運営協議会でも共有しています。飯地特有の文化に触れる学習や活動を行うため、地域の多くの方々に関わっていただけたよう、4月には、「いいじっ子サポーター総会」を開催しました。

本年度は昨年度以上に、多くの活動でいいじっ子サポーターの方の協力を得ています。

1 授業サポート

① 全校遠足

全校遠足は、4月にガイド役のサポーターの方から歴史、植物などの説明を聞きながら、地域を探訪します。飯地町の自然・歴史・文化を一通り見学することができるよう4つのコースを設定し、町内を巡ります。高学年はこの遠足から飯地町の魅力を発信することを目的にするふるさと学習を進めていきます。

② 飯地こんにゃくづくり

3・4年生が、サポーターの方と学校畑で飯地こんにゃくいもを栽培し、栽培したいもからこんにゃくづくりを行います。飯地こんにゃくいもの特徴や歴史をサポーターの方から学ぶ場も設定しています。

③ 地域の歴史・文化を学ぶ

5・6年生が、歴史的建造物の伊東家（豊臣方の隠れ里）の見学でサポーターの方から話を聞いたり、ワークショップ形式で飯地町の歴史、地歌舞伎について学習したりします。これらの学びを、「飯地の魅力」としていいじっ子発表会でも発信しています。

④ 町探検

1・2年生が生活科で行う町探検では、地域の様々な施設を訪問します。行く先々で、地域の方から話を



聞いたり、体験させてもらったりします。五毛座見学時には、舞台に上げてもらい、見得の切り方を教えていただきました。

⑤ 土曜授業 凧づくり

今年度は、土曜授業で、伝承遊びのひとつである凧づくりと凧揚げを行いました。凧づくりだけでなく、サポーターの方から凧の役割や凧に込められる思いなどの話を聞く場を設けました。



2 環境整備サポート

毎年行っているPTA環境整備作業では、保護者以外にも町民の方の協力をいただいています。今年は、年度当初の学校運営協議会で調整し、壮健クラブの方々にグラウンドの草取りをしていただきました。

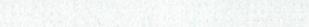
3 地域への発信

ふるさと学習やグラウンドの草取りなどの様子は学校だりだけでなく、飯地町広報「天空の里だより」でも「地域学校協働活動」のコーナーで紹介されます。



11月の「いいじっ子発表会」では、各クラスがふるさと学習で学んだことを発表しました。参観者から、「飯地の魅力を私たち大人がもっと増やして、発信していかないといけないなと感じました。」という感想をいただきました。

今後も、地域の方々とともに飯地を知り、感じ、魅力を発信する活動を通して、飯地への愛着と誇りをもつ児童の育成をめざしていきます。



ふるさとを知ろう

～串原の自然や人とのかかわりを通して～

こども園紹介



串原こども園は恵那市の最南に位置し、周囲を豊かな自然に囲まれた小規模園です。2歳児から5歳児まで13名の園児が在籍し、日々自然な形で異年齢保育を進めています。

串原には「歌舞伎公演」や、岐阜県重要無形民俗文化財である「中山太鼓」、地域の花の「ささゆり」や「7つの滝」など、素晴らしい伝統文化や自然が地域ぐるみで継承されています。

子どもたちは、散歩に出掛ける中で自然の美しさに触

れたり、小・中学生の歌舞伎発表や中山太鼓演奏を見聞きしたりする中で、串原の自然と文化を身近に感じることができます。

一方、限られた人間関係や友だち関係の中で、人とかかわる力を育み深めていくことが年々難しくなり、園の抱えている課題の一つです。

子どもなりに自分たちの住む地域について知ると共に、人とかかわる力を育てながら、ふるさとに愛着をもてるように働きかけていきたいと考えています。

串原こども園

1. 地域の人とのふれあい交流の中で

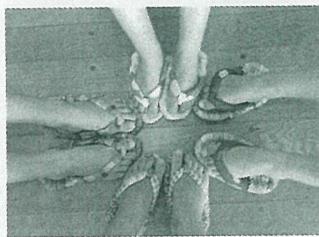
毎年地域の方の招待を受けたり、畑をお借りしたりして野菜の栽培・収穫体験を行っています。



【トウモロコシ農園にて】



【芋畠のおじいちゃん】



【気持ちの良い布ぞうり】



【夏祭りで踊る串原音頭】

また布ぞうりや手作り玩具を寄贈して下さる方、「串原音頭」を教えて下さる方など長年園と交流のある方が多くいらっしゃり、子どもたちが地域の宝として大切にされていることが伝わります。

年末にはお世話になった方々に、手作りカレンダーを作成し、感謝の気持ちを伝えてお渡ししながら交流を深めています。

コロナ禍でしばらく中止となっていたディサービスの皆さんとの交流ですが、今年度は中学校の中山太鼓交流の場をお借りして、園児のリズム体操を披露し、

元気な様子を見ていただくことができました。

勇壮に響く太鼓の演奏を聴きながら、数年後には子どもたちがこの文化を継承していくことを思うと胸が熱くなります。



【中山太鼓演奏交流にて】

2. 人とかかわる力を育てるために

今年度は友だちとのかかわりにも焦点を当て、少人数でも楽しめる集団遊びや、遊び方の工夫について考え取り組んでいます。

年長児の遊ぶ姿に憧れの気持ちを抱きながらもなかなか集団遊びに参加できなかった年中児が、支援や遊び方の展開を工夫することでそびの輪に入れようになったり、串原ならではの遊びを子どもたち自身で更に工夫し、異年齢児みんなで楽しめるようにルールを考えたりする姿も見られるようになってきました。

園児数は決して多くありませんが、年齢の異なる友だちと生活を共にすることで、それぞれの年齢の子どもたちが相互作用し合い、豊かな人間関係を築き「人とかかわる力」の育ちが期待できるのではないかと考えています。

これからも地域の方や友だちと心を通わせながら、生き生きとした園生活を送り、大きく成長した時に自分たちの暮らす「ふるさと」に愛着と誇りが持てるよう、保育を展開していきたいです。

温故知新★
ONKOCHISHIN

心に残る遊び・授業・先輩・職員

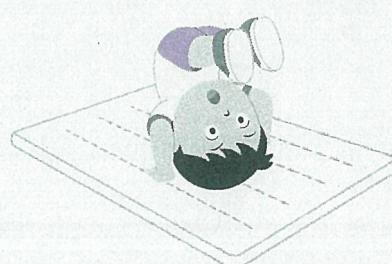
子どもの心に灯をともす教師の言葉

明智小学校 校長 平岡 淳



教員になって10年目の秋。前年度まで担任していた教え子から手紙が届きました。「バスケ部に入った頃、先生の真似してみた。中1の初めての体育のサッカーの授業で先生が話した左足のドリブルの話。チーム全員が右利きやつたんで、左足でのドリブルの練習をしてレギュラーになったってやつ。あれをパクって俺もバスケで左手のドリブル磨いた。さすがにレギュラーは無理やった、でもそこそこ上達した。」4月当初の中学校1年生に対して、保健体育のオリエンテーションで、自分の経験を語っていた記憶があります。その話を覚えていてくれて、こうして自分に活かしてくれていたことを嬉しく思うと共に、教師としての言葉の大切さを初めて感じた出来事でした。

そういう私も教師を目指すきっかけになったのは、中1の体育の授業での教科担任の一言がありました。マット運動で連続技を行う授業でしたが、提示された技の中の一つに「片足旋回」という技がありました。あまり積極的に練習をしていなかった私でしたが、この技に興味を示しやってみたところ、何度かやってい



くうちに面白くなって、どんどん早く足を回せるようになっていきました。そんな姿を見て、先生は「おまえすごいな」と誉め、クラス全員の前でやるように言われました。演技をやり終えた後に友達から、「うまいなあ」と言われて、そこでハッとしました。人前で何かをやることが苦手だった自分が、知らない間に人前に出ていたことに驚いたのです。そして、みんなに認められたことがとても嬉しく思った瞬間でした。それから体育がより好きになり、高校3年生の進路決定につながっていました。

「教育とは子どもの心に灯をともすこと」と言われます。また、西洋に「馬を湖のほとりに連れていくことはできるが、馬に水を飲まることはできない」ということわざがあります。子どもをその気にさせれば、自分から取り組み、伸びていく力が生まれます。その気にさせるための力量を私たちは身に付けていかなくてはいけないと常に感じています。



研究所研修の実施報告

校区別 外国語担当者研修会

【恵那西中校区 授業者 武並小学校 宮地秀明教諭】

4年生 「What do you want?」

○学びを共有したこと

- ・児童が自然に自由に英語を使うことができる雰囲気・環境があること。(オールイングリッシュ)
- ・活動の合間はチャンツ。歌いながら移動で、雰囲気作りと楽しみながらの定型文の定着。
- ・ALTのやり取りをクラス全体のやり取りとして惹き込んでいる。



【恵那東中校区 授業者 大井小学校 澤野文哉教諭】

3年生 「What's this?」

○学びを共有したこと

- ・Half timeで明確に持つべき視点
 - ①何のために行うのか。
 - ②どんなことをレベルアップさせたいのか。(具体的に)
- ALTとのペアで表現を引き出す時間にてもいい。
- ・Review timeでは、ロイロノートを活用した既習表現や英単語を、子どもが声に出しながら確実に知識の定着させている。

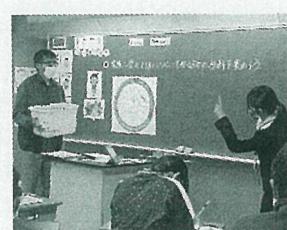


【恵南地区 授業者 山岡小学校 奥村朋子教諭】

6年生 「Let's think about our food.」

○学びを共有したこと

- ・ロイロノートでの教材が、視覚的に興味・関心を引くように工夫されていた。
- ・アウトプットの場面がたくさんできるような工夫がされていた。
- ・子どもに必然性をもたせて、表現を増やしていくことの難しさを感じている。
- ・子どもが学びを実感できる終末を考えていく。



【恵那北中校区 授業者 中野方小学校 米満三河教諭】

5年生 「What would you like?」

○学びを共有したこと

- ・small talkで、ALTとHLTがオールイングリッシュで学級を巻き込みながら導入していた。必然性をもたせるだけではなく、本時の学習内容も確実に把握できている。
- ・子どもが興味をもち続け、効率的にロイロノートで作成された活動ができる教材研究がされている。



道徳教育計画訪問（道徳教育推進教師研修会）

《明智中校区 発表校 明智小学校》

5年生 「道案内」

主題名：親切の追求 西尾友里教諭

○学びを共有したいこと

- ・道徳教育推進教師を中心とし、自校の実態を丁寧に分析し、担任たちが具体的な手立てを交流し合い、実践を重ねている。
- ・校区で児童生徒を育てようと、小中が確実に情報交換をし、地域とのかかわりを大切にした活動（行事）を計画的に実施している。
- ・特に学級活動と絡めて道徳に年間指導計画を作成しており、道徳で学んだ価値観を実生活の中でアウトプットできる場として設定している。

○授業より

- ・実体験の言葉には重みがあることから、自分事としてとらえさせる手段として、クラス全体で共有する方法もある。
- ・児童が反応しやすい、発表したくなるような発問が吟味されていて、児童同士の意見がつながる。
- ・今後は、価値理解に迫る問い合わせ返し発問を考えていくことで、自分の心と対話する深い学びへつながっていく。



《恵那北中校区 発表校 飯地小学校》

6年生 「いこいの広場」

主題名：責任ある行動とは 磯川哲也教諭

○学びを共有したいこと

- ・恵那北中校区4校では、小学校3校交流会や小中合同研究会が定期的に行われ、校区内の共通理解のための情報共有ができている。
- ・道徳的実践の一つとして、「あいさつ向上」の取り組みを全校体制で行い、子どもたちが主体的に活動を考え取り組むことを大切にしている。4校の児童生徒の挨拶の実態の情報共有ができた。
- ・別葉に今年の道徳の足跡が赤で修正・書き加えがされていて、学びの積み重ねがある。

○授業より

- ・心情バローメーターを使い、子どもの気持ちを視覚的にすることで、仲間の気持ちと比べて考えをもつことができた。
- ・道徳的価値項目に迫るための発問の工夫をしていく必要がある。

